

講演会次第

1. 開会の辞 13:00～13:05
日本鋳業協会 理事 鉛亜鉛需要開発センター長 築城 修治
 2. 主催者代表挨拶 13:05～13:10
日本鋳業協会 会長 関口 明
 3. 来賓ご挨拶 13:10～13:15
経済産業省 製造産業局 金属課長 黒田 紀幸
 4. 講演
 - (1) 「亜鉛地金の需給動向について」
13:15～14:00
三井金属鋳業株式会社 金属事業本部 金属事業部 営業統括部 営業部長
菅原 健二
近年および足元の国内亜鉛地金の需要動向、および国内外の需給バランスとその動向について述べる。
 - (2) 「溶融亜鉛めっき・塗装鋼板のクロメートフリー化活動と最近の動向」
14:00～14:45
一般社団法人日本鉄鋼連盟 建材薄板技術・普及委員会 基礎技術分科会 主査
JFE鋼板株式会社 商品技術部 主監 石川 博司
環境負荷物質低減のため鋼板メーカーのクロメートフリー技術の開発、製品化を受けて、日本鉄鋼連盟による公共建築工事標準仕様書及びめっき JIS 規格からクロメート材を排除する活動と最近の動向について述べる。
 - 【休憩】 14:45～15:00
 - (3) 「土木学会編：亜鉛めっき鉄筋を用いる鉄筋コンクリートの設計施工指針(案)の改定の概要」
15:00～15:45
鹿児島大学 大学院理工学研究科 教授 工学博士 武若 耕司
土木学会では、1980年制定「亜鉛めっき鉄筋を用いた鉄筋コンクリートの設計施工指針(案)」を現在の設計の主体である性能照査型の体系に修正し38年ぶりに改訂する。本報告ではこの改定の概要を紹介する。
 - (4) 「世界の溶融亜鉛めっきに関するトピックス」
15:45～16:30
一般社団法人日本溶融亜鉛鍍金協会 企画部長 柴山 裕
バッチ式溶融亜鉛めっきは、鋼構造物の防食技術として長い歴史があるが、近年その適用はさらに広がっている。国内外を含め、昨今の適用例、技術課題について報告する。
5. 閉会の辞 16:30～16:35
日本鋳業協会 副会長 加藤 元彦